

令和7年度 東京都内湾水生生物調査 9月鳥類調査 速報

●実施状況

令和7年9月8日に鳥類調査を実施した。調査当日は大潮で、干潮が11:26(29cm)、満潮は04:48(211cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
調査時刻	12:45-14:13	10:02-11:32	8:25-9:41
調査時間(分)	88	90	76
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	32.5	30.4	29.4
風向	南	南南西	南
風速(m/sec)	0.9	1.5	0.3
備考	潮位が低いため到着から上陸まで約20分待機した。調査開始時、干潟は沖合まで広く干出。	最干潮前から干潟は広く干出していた。	お台場海浜公園で噴水設置に向けた作業が行われていた。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった 鳥類上位3種	カワウ(2143羽)	カワウ(158羽)	カワウ(2424羽)
	ウミネコ(2065羽)	ウミネコ(148羽)	アオサギ(52羽)
	オオセグロカモメ(166羽)	トウネン(60羽)	トビ(15羽)
備考	・ミヤコドリ、シロチドリ、ダイシャクシギ、キリアイ等、重要種として15種を確認。 ・シギ・チドリ類は9種を確認。ほとんどの種が干潟で採餌していた。イソシギは護岸のまわりで採餌、キョウジョシギは干潟の上空を飛翔。 ・干潟でカワウ、ウミネコ、オオセグロカモメの群れが休息、サギ類は主に採餌、一部のアオサギが休息していた。 ・トビ1羽が上空を飛翔。沖合の杭上でミサゴが休息。	・トウネン、イソシギ、ダイサギ、コサギ、ミサゴ等、重要種として7種を確認。 ・シギ・チドリ類はトウネン、イソシギの2種を確認。トウネンは個体数が多く、60羽の群れが干潟で採餌。イソシギは干潟と護岸で見られた。 ・アジサシ1羽が干潟上空を広く飛翔。 ・サギ類はアオサギ、ダイサギ、コサギを確認。 ・干潟でカワウとウミネコの群れが休息。 ・ミサゴ1羽が杭の上で休息。	・イソシギ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、オオタカ、トビ等、重要種として7種を確認。 ・カワウの個体数は第六台場1553羽、鳥の島859羽、お台場海浜公園12羽、合計2424羽。繁殖は終了していた。 ・サギ類はゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギを確認。 ・シギ・チドリ類はイソシギ1種を確認。護岸で主に採餌していた。 ・オオタカ1羽が第六台場の樹林内にいて時々周辺を飛翔。

●出現種と個体数

No.	目	科	種名	令和7年							重要種 選定基準				
				9月							文化財 保護法	種の*1 保存法	環境省*2 RL2020	東京都*3 RDB2023 (区部)	
				葛西人工渚(東なぎさ)			森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園							
				範囲 内	沖合	合計		第六 台場	鳥の 島	公園 側					合計
1	カモ	カモ	カルガモ	1		1	8								
2	チドリ	ミヤコドリ	ミヤコドリ	2		2								VU	
3		チドリ	シロチドリ	2		2							VU	CR	
4		シギ	ダイシャクシギ	2		2								CR	
5			オオソリハシシギ	4		4							VU	EN	
6			キョウジョシギ	7		7								VU	
7			キリアイ	1		1								CR	
8			トウネン	8		8	60							VU	
9			イソシギ	4		4	5	1	6	5	12			VU	
10			アオアシシギ	3		3								NT	
11		カモメ	ユリカモメ	1		1									
12			ウミネコ	2065		2065	148		1	5	6			留	
13			オオセグロカモメ	166		166							NT		
14			アジサシ				1								
15	カツオドリ	ウ	カワウ	2143		2143	158	1553	859	12	2424				
16	ペリカン	サギ	ゴイサギ					2			2			VU	
17			アオサギ	34		34	41	7	31	14	52				
18			ダイサギ	53		53	12		1		1			NT	
19			コサギ	32		32	7			10	10			VU	
20	タカ	ミサゴ	ミサゴ		1	1	1						NT	EN	
21		タカ	オオタカ					1			1		NT	EN	
22			トビ	1		1	4	15			15			NT	
23	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ				3	1	1		2				
計6目10科23種				18 種	1 種	19 種	12 種	7 種	6 種	5 種	10 種	0 種	0 種	5 種	16 種

※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第8版」(日本鳥学会, 2024)に従った。

*1 文化財保護法：特天=特別天然記念物

*2 種の保存法：国際=国際希少野生動植物種、国内=国内希少野生動植物種

*3 環境省レッドリスト2020：CR=絶滅危惧ⅠA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足

*4 東京都レッドデータブック2023(区部)2023年版：CR=絶滅危惧ⅠA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足、留=留意種

<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

干潟は広く干出し、調査中に徐々に狭まってきた。



西側の地点より南西方向を見る



○出現種(シギ・チドリ類)

ミヤコドリ 2 羽、シロチドリ 2 羽、ダイシャクシギ 2 羽、オオソリハシシギ 4 羽、キョウジョシギ 7 羽、キリアイ 1 羽、トウネン 8 羽、イソシギ 4 羽、アオアシシギ 3 羽が確認され、イソシギとキョウジョシギを除く多くの種が干潟で採餌していた。葛西人工渚でキリアイの記録は少なく、平成 28 年度に続き 2 例目である。環境省レッドリストでシロチドリとオオソリハシシギは絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドデータブックでシロチドリ、ダイシャクシギ、キリアイは絶滅危惧ⅠA類(CR)、オオソリハシシギは絶滅危惧ⅠB類(EN)、ミヤコドリ、キョウジョシギ、トウネン、イソシギは絶滅危惧Ⅱ類(VU)、アオアシシギは準絶滅危惧(NT)に指定されている。



○出現種(サギ類)

アオサギ、ダイサギ、コサギの 3 種が確認され、主に干潟で採餌していた。



○出現種(カモメ類)

ユリカモメ、ウミネコ、オオセグロカモメの 3 種が確認された。このうちオオセグロカモメは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)に指定されている。



○干潟利用状況

干潟でカワウ 2143 羽、ユリカモメ 1 羽、ウミネコ 2065 羽、オオセグロカモメ 166 羽の群れが休息していた。



干潟で休息するカワウ（黒色の鳥）とウミネコ（白色の鳥）の群れ

＜森ヶ崎の鼻＞

○調査地点の状況

最大干潮時刻で、干潟が広く干出していた。



○出現種(シギ・チドリ類)

トウネン 60 羽が干潟で採餌、イソシギは干潟で 1 羽が採餌、護岸で 4 羽が採餌または休息していた。



○出現種(アジサシ)

1 羽が干潟上空を広く範囲に飛び回り、時折水面近くに降下して採餌していた。同一と考えられる個体が構造物にとまって休息する様子も見られた。



○出現種(タカ類)

ミサゴ 1 羽が杭にとまって休息していたほか、トビ 3 羽が上空を飛翔、1 羽が干潟で休息していた。ミサゴは環境省レッドリストで準絶滅危惧 (NT)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧 I B 類 (EN) に、トビは東京都レッドデータブックで準絶滅危惧 (NT) に指定されている。



○干潟利用状況

カワウ 158 羽とウミネコ 148 羽が干潟で休息していた。サギ類ではアオサギとダイサギが干潟に広く分散し、ダイサギは主に採餌、アオサギは採餌と休息の両方が見られた。



＜お台場海浜公園＞

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島では、カワウの営巣は終了していた。



○出現種(カワウ)

第六台場、鳥の島いずれも繁殖活動は終了しており、使用中の巣は見られなかった。カワウの個体数は第六台場に1553羽、鳥の島に859羽、お台場海浜公園に12羽、合計2424羽であった。第六台場の樹上や鳥の島の護岸では群れで休息する様子が見られた。



○出現種(サギ類)

4種のサギ類が確認された。ゴイサギは第六台場で幼鳥2羽が休息、ダイサギは鳥の島で1羽が採餌、コサギはお台場海浜公園で10羽が採餌、アオサギは全域に分布し合計52羽が見られた。東京都レッドデータブックでダイサギは準絶滅危惧(N)、ゴイサギとコサギは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



ゴイサギ



コサギ(矢印)とアオサギ



ダイサギ

○出現種(イソシギ)

第六台場、鳥の島、お台場海浜公園の護岸で12羽が採餌していた。時折2～3羽が海上を飛翔する様子も見られた。



○出現種(オオタカ)

幼鳥1羽が第六台場の樹林から出現した後、林内へと戻る行動が2回確認された。本種は環境省レッドリストで準絶滅危惧(N)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。

<その他>

砂町運河で確認されたウミネコは京葉線の高架にとまる1羽のみで、今季の繁殖は終了したと考えられる。なお、京葉線の高架にカワウ 970 羽がとまっていたほか、アオサギ 1 羽が周辺で確認された。



ウミネコが営巣する構造物



ウミネコ成鳥

<トピックス>

- トウネンの群れ -

森ヶ崎の鼻でトウネンの幼鳥 60 羽が記録された。森ヶ崎の鼻では干潟を利用するシギ・チドリ類の減少が顕著で、本種もその典型である。過去には昭和 60 年度に 2000 羽、平成 5 年に 379 羽、平成 7 年度に 244 羽など、多くの個体が飛来する年があったが、平成 23 年度以降はほとんど飛来しなくなり、平成 24 年度、平成 25 年度に各 1 羽が記録されたのみである。今回のように群れで飛来したのはとても稀な記録と言える。



3 点とも、森ヶ崎の鼻の干潟で採餌するトウネン